



楓の誉

R3.9.1(第6号)

文責：瀨上 佳宏

日本人の道徳性が試される時

前期後半がスタートし、一週間が経ちました。しかし、ご承知の通り、本県はまん延防止重点措置を実施中です。現時点では、十二日(日)までが、その期間に定められています。が、感染力が強いデルタ株のまん延により、若者の感染者も増加している状況で、措置の延長が危惧されるところです。

このような厳しさの中、東京オリンピックが無事閉幕しました。金27、銀14、銅17と、史上最高のメダル獲得数もさることながら、選手たちの正々堂々と全力を尽くし競い合う姿、試合後に互いの健闘を讃え合う姿など、たくさん感動的な場面に出会いました。また、大会を支える皆さんのボランティアの姿もありました。このような逆風な中で、オリンピックが滞りなく運営できたのは、開催国が日本だったからこそと、誇らしく感じているのは私(校長)だけでしょか。

また私は、現在開催中の東京パラリンピックにも注目しています。パラアスリートたちのハンディキャップを乗り越え、自らの限界に挑戦する姿をおして、多様性を認め合う「共生社会」の価値を、お互いに再認識する機会になればいいなと思っています。

これらのことにも関連しますが、日本を訪れた外国の方から、日本人のモラルの高さに感動する声が聞かれることがあります。例えば、都会の道路にゴミが落ちていない。運転手・歩行者ともに信号をよく守る。災害時の配給の際などで割り込んだりせずきちんと並んで待つ。……。ある面、日本人にとっては当たり前のこと、すなわち文化なのかもしれない。私が受けた道徳教育も、少なからず影響しているのではないかと思っています。

学習指導要領の改訂により、道徳が「特別な教科」として位置づけられました。その理由の一つに「いじめ」の問題がありますが、これに限らず、社会の変化を予測困難な時代、様々な問題や課題に正面から向き合い、「考え、議論する道徳」をおして、道徳教育の実効性をさらに高めることが求められています。

このことは、現在のコロナ禍の状況にも当てはまるのではないのでしょうか。感染拡大防止と個人の行動の自由、感染拡大防止と経済活動の確保、感染拡大防止と学びの保障、……。様々な側面から天秤にかけなければなりません。どれも単純に割り切れるものではありません。葛藤があります。とにかく国民一人一人が、自らの道徳性(道徳的価値観)にしたがい、最善・最良と思う行動をしていく他にありません。そういった意味では、今は日本人の道徳性が試されている時なのかもしれません。



授業のライブ配信により、「学びの保障」と両立

なお、十月八日の前期終業に伴い、ご家庭に通知表が届けられます。その際は、各教科の評定だけでなく、道徳の評価(文章)についてもご確認をいただきますようお願いいたします。

分散登校を実施します

先日、本市教育委員会よりお知らせがありましたとおり、学校内の感染拡大防止の警戒を強め、感染症対策の徹底を図るための措置として、九月三日(金)から九月十四日(火)までの休業日八日間、西合志第一小学校を除くすべての小中学校で「分散登校」を実施することになりました。

期間中は五時間授業を基本とし、オンライン授業と組み合わせることで学びの保障に取り組んでいきますが、その具体的方法は、各学校のオンライン教育の整備状況に合わせてよいことになっていきます。

そこで本校では、分散登校は午前中の三時間のみとし、実技・実習を伴う教科をできる限り実施します。その一方で午後の二時間は全員帰宅し、一斉にオンライン学習を実施することになりました(詳細は別途お知らせします)。

そのメリットは二つです。その一つは、より一層感染防止対策を強化できることです。もう一つは、一方的な授業配信でなく、双方向、つまりコミュニケーションを図りながらの学習を実現できることです。現在は感染防止の観点から、互いが向き合うことになる話し合い活動を制限していますが、オンラインであれば、今後は「ブレークアウトルーム機能」等を使って、話し合い活動も自在に行えます。生徒はもちろん、先生方もいろんな方法にチャレンジしながら、ICTスキルをどんどん向上させるものと期待しています。



生徒たちの反応を見ながら授業を進めることもできます